

●中央公論新社 新刊のご案内●

とむら げんばびと
お吊いの現場人

ルポ 葬儀とその周辺を見にいく

朝山 実 著



ひとは、なぜ吊いの儀式をするのだろうか？
変わりゆく葬儀の今を描く、
書き下ろしノンフィクション

手作りの仏壇、遺品のリユース、霊柩車製造、ドライブスルーの葬儀会館、墓じまい、派遣僧侶、自宅葬……。

前作『父の戒名をつけてみました』以来、現代の「吊い」について考察を深めてきた著者。しかも、自身は父から相続し、空き家となっていた一軒家を、霊柩車運転手から起業した葬儀社に「葬儀会館」として貸し出している。

激変するお葬式とその周辺を、業界の最先端をゆく人びとへの取材・インタビューを軸に描き出す、異色のルポルタージュ。

朝山 実 (あさやま じつ)

1956年、兵庫県生まれ。インタビューライター。地質調査員、書店員などを経て、長渕剛の「とんぼ」に感化され上京。ひきこもり生活のリハビリで30代にしてインタビュー職に就く。以降、ロングインタビューを軸とする人物ルポルタージュとブックレビューの仕事を30年ちかく継続。いつも目がいくのは「隅っこ」と「居心地」。著書に『イッセー尾形の人生コーチング』(日経BP社)、『アフター・ザ・レッド 連合赤軍 兵士たちの40年』(角川書店)、『父の戒名をつけてみました』(中央公論新社)など。

四六判 並製

定価 本体 1700円 (税別)

2019年10月25日 発売

本書に関するお問い合わせ先

〒100-8152 千代田区大手町1-7-1

中央公論新社 文庫編集部

藤平 歩 (a-fujihira@chuko.co.jp)

Tel 03-5299-1890 / fax 03-5299-1943